

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査の活用にあたって

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査は、教員と児童生徒が**授業の振り返り**を行うための質問調査です。普段の授業を踏まえて、教員と児童生徒がそれぞれ質問調査を行い、結果をもとに、主・対・深の視点から見つけた**授業の良さを共有**したり、改善する点やその改善方法を検討したりするきっかけとすることができます。

質問調査用資料の内容

- ①児童生徒用質問調査
- ②教員用質問調査
- ③調査結果集計表
- ④活用にあたって(本シート)



実施・集計は
アプリ活用もおすすめ!

学校 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 年 〇月 〇日

大まかに学年・学年・教科・教科を記入してからはじめましょう。

下記の10項目について、今日の授業の振り返りとして、振り返りをするものを選び、①～⑤の中から一つ選んでください。

項目	①	②	③	④	⑤
よくあった	ときどきあった	どちらともいえない	あまりなかった	ほとんどなかった	全くなかった

1 授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと

2 授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと

3 わからないことなどを質問しやすい雰囲気や工夫ができたこと

4 グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したことで、自分の考えが深まったこと

5 課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで、自分の考えが深まったこと

6 話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったこと

7 授業を通して学んだ内容について、さらに詳しく知りたくなったこと

8 授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと

9 授業で学んだことを、日常生活に生かせるようになったこと

10 授業で学んだことを、日常生活に生かせるようになったこと

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査結果集計表

項目	①	②	③	④	⑤	合計	割合	コメント
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								

※ 割合は、項目ごとの回答数÷総回答数×100で求めます。



質問項目は「主・対・深」に関わりの深いものを9項目、県学調の質問調査から専門家(教授等)が選定しました。学年・教科に関わらず調査を行うことができます。

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査項目

主に
主体的な
学び

主に
対話的な
学び

主に
深い学び

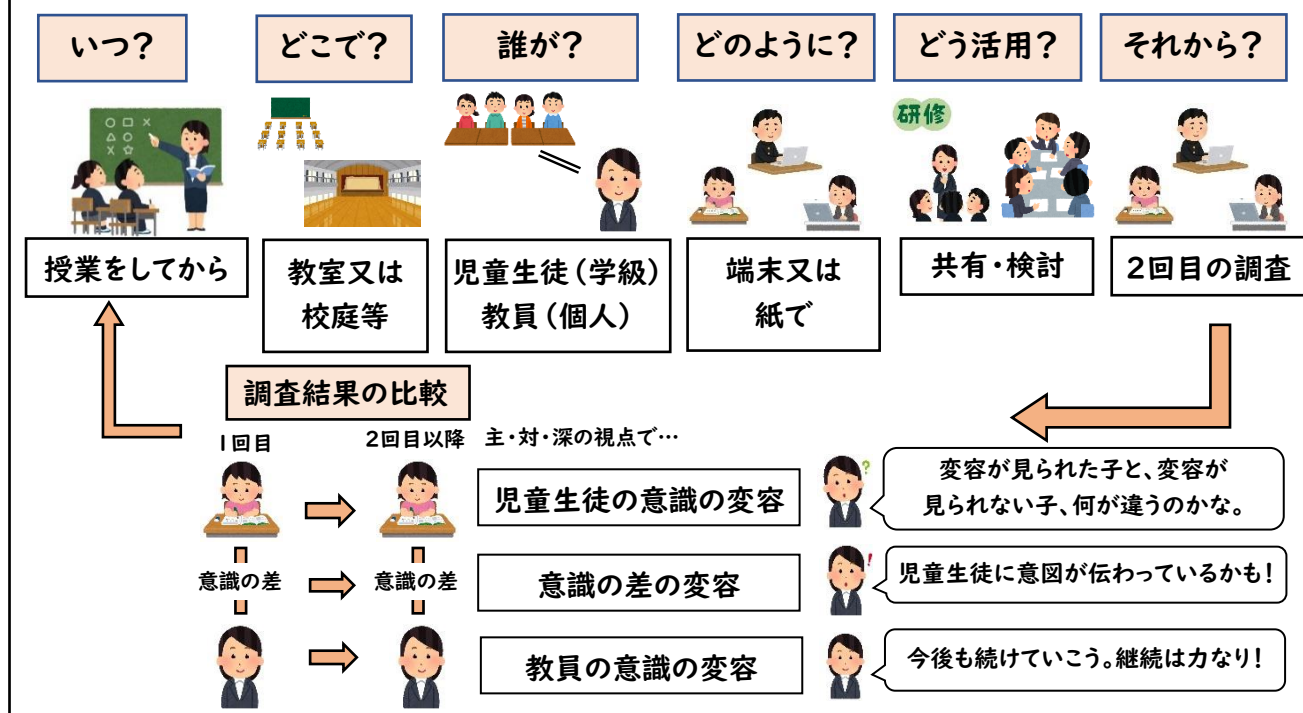
教員用質問調査	
1	子供の実態を把握した上で、子供が主体的に学べるような課題設定や授業展開、それらを踏まえた教材研究や授業づくりを意識したこと
2	授業の終わりに、子供たちが振り返る場面を設定したこと
3	わからないことなどを質問しやすい雰囲気がつくれるように工夫したこと
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決する場面を設定したこと
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで、子供たちが自分の考えをしっかりと持てるように工夫したこと
6	対話等を通じて、多様な情報や考えを収集させたり、自分にはない異なる考えの良さに気付かせたりしたこと
7	授業を通して学習した内容について、さらに詳しく知りたい、学びたいと思うような工夫をしたこと
8	学びの系統性を意識して、授業中の子供に対する声掛けなどを工夫したこと
9	授業で学んだことが生活のどの場面につながるかを意識して授業をしたこと
10	子供が教師の指示に従って受身的に学ぶのではなく、子供が学びたい、話し合いたいという思いを持って学習に取り組んでいるか、授業中に見取って、把握していること

児童生徒用質問調査	
1	授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと
2	授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと
3	わからないことなどを質問しやすい雰囲気や工夫ができたこと
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったこと
6	話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったこと
7	授業を通して学んだ内容について、さらに詳しく知りたい、学びたいと思ったこと
8	授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと
9	授業で学んだことを、日常生活に生かせるようになったこと

同じ番号の教員用の質問と児童生徒用の質問は、同じ内容について別の文言で質問しています。この対応がポイントです。



質問調査の実施



質問調査の Q&A



なぜ同じ調査を2回以上行うのですか？
また時期はいつ頃がよいですか？

比較を行い、変容を見取るためです。時期は授業を1か月程度行った後に1回目、授業改善に取り組んだ後に2回目以降の調査を実施しましょう。



質問項目の文言を変えて実施してもよいですか。

変えないことが望ましいです。
県学調の質問を使用することで、主・対・深の授業改善の進捗を可視化できるよう設計しています。小学校低学年などに向けた調査で文言が難しいときは、担当の先生が説明しながら実施してください。



順番や文言を変えずに、他の質問調査に追加して実施することもできますね。



学年や学校全体で一斉に調査した方が効率がよいのでは？

児童生徒がどの授業のことを質問されているのか、先生方が授業のどの部分に視点を当てて改善を行うのかをわかりやすくするために、学級と授業を担当する先生が1対1になるように設計しています。



授業改善の方法を検討するときに、気をつけることや参考になる資料はありますか？

授業改善の視点を絞ると、学年会や教科部会、研修等で授業改善の方法を検討しやすいです。また、指導助言を受ける際に事前に視点を明確にしておくことも大切です。県発行の指導に関する資料も視点を絞って見直してみてください。

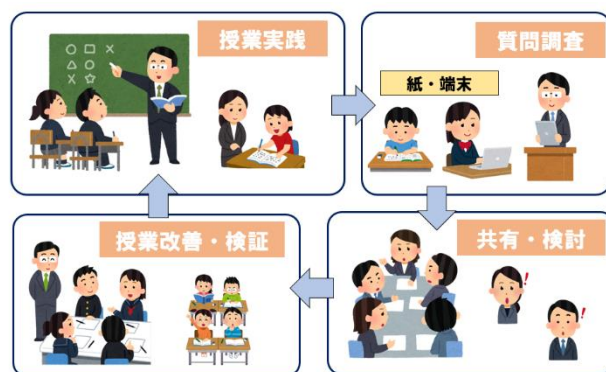


質問調査結果の活用事例

質問調査の結果をもとに、主・対・深の視点から見つけた授業の良さを共有します。また、改善すべき点、その改善方法を検討します。

共有・検討したことを基に授業改善に取り組み、一定期間をあけて再度質問調査を行うことで授業改善の進捗を可視化することができます。

いくつかの事例をパターンに分けて紹介します。



調査結果の活用事例①

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査

活用事例① 教員も児童生徒も高評価の項目 → 校内等で共有を！

評価結果	教員用質問調査	集計結果	児童生徒用質問調査	集計結果
5	2 授業の終わりに、子供たちが振り返る場面を設定したこと	4.4	2 授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを書き出したこと	

わからなかったことも振り返る
次の授業へ反映する

こんな工夫をしています。

視点を明確に
活動の後に一人で考える時間を確保

調査結果の活用事例②

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査

活用事例② 教員と児童生徒の振り返りに差がある項目 → ねらいがうまく伝わっていないかも...

評価結果	教員用質問調査	集計結果	児童生徒用質問調査	集計結果
5	3 わからないことなどを質問しやすい雰囲気がつくれるように工夫したこと	2.5	3 わからないことなどを質問しやすい雰囲気の中で授業が行われたこと	



実態に合った指導を行っている可能性が高いです。普段の取組をぜひ校内で共有しましょう。事例が増えたら共通点も探りたいですね。



先生の意識はできているので、子供への伝え方や活動・教材の工夫をしましょう。また、調査結果は児童生徒全体が低いのか、一部の子が高く、一部の子が低いのかも注目しましょう。

調査結果の活用事例③

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査

活用事例③ 教員も児童生徒も低評価の項目 → 授業改善のチャンス！

評価結果	教員用質問調査	集計結果	児童生徒用質問調査	集計結果
1	6 対話等を通じて、多様な情報や考えを収集させたり、自分にはない異なる考えの表出に気付かせたりしたこと	1.3	6 話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わった、深まったこと	

そういえばやっではないかも...



調査結果の活用事例④

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査

活用事例④ 児童生徒間での差がある項目 → 個々の状況に着目

評価結果	教員用質問調査	集計結果	児童生徒用質問調査	集計結果
4	5 課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで、子供たちが自分の考えをしっかりと持てるように工夫したこと	3.8	5 課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったこと	

児童生徒A 5
児童生徒B 3
児童生徒C 3
児童生徒D 1
児童生徒E 4
児童生徒F 3
...

一人一人に着目すると...

Aさんは、確かに話し合い活動をしたあとの表情がよいかも。

Dさんは、話し合い活動がうまく機能しなかったのかな...。ペアを工夫してみようかな。



まずは主・対・深の授業を先生が意識しましょう！授業改善のチャンスです。研修などで周囲の先生の取組を参考にしてみましょう。



児童生徒の調査結果は、集計結果（平均）だけでなく、個々の回答にも目を向けてください。数値の低い回答は「こんな授業を受けたい」という子供の期待の表れとも受け取れます。